

小腸ノ「レ」線學的觀察（其3）

特ニ其縱走粘膜皺襞像ニ就テ

金澤醫科大學理學的診療科學教室（主任平松助教授）

副 手 西 東 利 男

Toshio Saito

（昭和16年3月19日受附）

内 容 抄 録

小腸ノ縱走粘膜皺襞像ヲ觀察スル機會ヲ得之ガ記載 ヲ行ヘルモノナリ。

目 次

第1章 緒 言

文 獻

第2章 症 例

參考寫眞並説明

第3章 總括並考察並結論

第1章 緒 言

近年 Chaoul, Forssell 等ニヨリ消化管粘膜皺襞像ノ研究行ハル、ニ及ビ、胃、大腸ノ「レ」線診斷ハ格段ノ進歩ヲ遂ゲタルモ、一般小腸ハ内容移動ノ速カニシテ一方蹄係ノ重積甚ダシキ爲、其粘膜皺襞像ノ觀察ハ比較の困難ヲ伴ヒタリ。然シテ現在正常小腸粘膜皺襞像トシテ縞狀、肋骨狀、百足蟲狀、羽毛狀ナドト稱セラル、纖細ナル横走又ハ斜走粘膜皺襞像（ケルクリング氏粘膜皺襞像）、又ハ顆粒狀、粉雪狀ナド

ト稱セラル、粉末撒布狀粘膜皺襞像、又ハ廻腸終末部ニ於ケル結腸様ハウストラ擬似像ナド觀察セラレタリ。

然シテ壓迫部、收縮部、廻腸終末部ナドニ於テ縱走粘膜皺襞像出現スルコトアリト記載サレラルモ余寡聞ニシテ著明ナルモノヲ知ラズ、偶々小腸「レ」線寫眞觀察中稍著明ナルモノ2例ヲ認メタレバ之ガ記載ヲナサントス。

第2章 症 例

第1例 西○富○子、20歳、♀

輕度ナルモ半年程前1ヶ月程持續セル腹痛アリタルコトアリ、他ニ格別重篤ナル腹部疾患ノ既往症無シ、小腸「レ」線所見

造影食攝取後1時間ニシテ空腸上部ニ著明ナル縱走粘膜皺襞像ヲミル。

之ヲ詳細ニ觀察スルニ3-4條ノ粘膜皺襞間陰影ガ殆ンド全幅ノ2-3條ノ陰影脱落ヲハサシテ大略平行

ニ連續シテ縱走シ、其距離相當長サニ達ス。尙部分的ニコノ3-4條ノ縱走粘膜皺襞間陰影相寄り蠕動様狹窄様部位ヲ形成シ、其前後ニ壺腹様擴大部ヲ形成スルモ、此内部粘膜皺襞像ハ同様縱走ナルカ、或ハ腔壁ノミ陰影著明ニシテ、内存セル縱走粘膜皺襞間陰影ハ狹窄部ヨリ出ルニ從ヒ消失スル像ヲ呈スルヲ認ム。

以上ノ縱走粘膜皺襞像ヨリ遙カニ離レテ下方ニ一部極メテ短キ縱走粘膜皺襞像ミラレ、其前後ハ典型的ナ壺腹様擴大ヲナサズ其内部ハ次第ニ橫走粘膜皺襞像トナルヲ認ム。

造影食攝取後1時間半ニシテ一部ニ縱走粘膜皺襞像ヲミル。之ハ粘膜皺襞像ノ認メ得ザル典型的壺腹様陰

影塊ノ前後ニ短キ縱走セル粘膜皺襞像ナリ。

第2例 竹〇ツ〇、37歳、♀

4ヶ月來輕度ナルモ腹部膨滿アリテ便秘ニ傾ク。

小腸「レ」線所見

造影食攝取後1時間半ニシテ著明ナル縱走粘膜皺襞像ヲミル。

之ヲ詳細ニ觀察スルニ纖細ナル數條ノ略平行ナル粘膜皺襞間陰影ノ相當距離ノ縱走像ナリ。其間何等狹窄部位ヲ示スコトナク殆ンド一様ノ幅ヲ以テ終始ス。

之ト離レテ下方ニ短キ縱走粘膜皺襞間陰影狹窄部ヲツクルモ 前後ニ壺腹様擴大無キ 橫走粘膜皺襞像ニ連ル。

第3章 總括並考察並結論

第1例及第2例ニ於テ空腸上部ニ相當長キ縱走粘膜皺襞像ヲミル。

之ヲ詳細ニミルニ第1例ニ於テハ部分的ニ狹窄部ヲ示シ其前後ニ壺腹様擴大アルモ、第2例ニ於テハ狹窄擴大ナドヲ示サズ。

第1例、第2例共之ト離レテ前後ニ特別擴大ナキ縱走粘膜皺襞像ヲ以テ狹窄ヲ呈スル部ヲ認ム。

又第1例ニ於テハ別ニ典型的壺腹様擴大ヲ呈セル小陰影塊ノ前後ニ短キ縱走粘膜皺襞像ノ出現スルヲミル。

思フニ小腸粘膜ニハ多數ノ輪狀襞（ケルクリング氏皺襞）存シ、此輪狀襞ハ Forssellニ依レバ粘膜筋板ニ原因スルト考ヘラレバ、縱走粘膜皺襞像出現ノ爲ニハ何等カノ作用ニヨリ此輪狀襞ノ縮少ヲキタサシメ逆ニ縱溝ヲツクラザルベカラズ。此處ニ小腸筋層ノ作用ガ考ヘラル。即内輪層外縱層ヨリナル小腸筋層ハ内輪層ノ著明ナル部分的收縮ニヨリ小腸ハ部分的ニ狹窄スルタメ過剰トナリタル粘膜壁ハ縱ニ溝ヲ形成スルニ至ルベシ。之ガ縱走粘膜皺襞像トシテ認メラル、モノト思考セラル。

壺腹様擴大ヲ伴ヘル短キ縱走粘膜皺襞像ハ蠕動運動、壺腹様擴大ヲ伴ハザル短キ縱走粘膜皺襞像ハ腸内容混合運動ノ一位相トシテ承認セラ

レザルヤ否ヤ。

然シテ第1例及第2例ニミル如キ空腸上部ノ相當長キ縱走粘膜皺襞像ハ如何、思フニ蠕動運動又ハ混合運動ノ一位相トシテ出現スルト思考サル、如キ縱走粘膜皺襞像ハヨク他ニ於テモ觀察セラレルモノニシテ、小腸筋層中内輪層ノ收縮ニ依ルト考ヘ得ルモ、空腸上部ノ相當長キ縱走粘膜皺襞像ヲ之ノミニ歸セントスルニハ曩ニ余ノ發表セシ如ク空腸上部ノ極メテ内容移動速カナルハ所謂蠕動運動ノ形態モ下部ニ比シ異リ其極メテ粗大ナル爲ニシテ第1例ハ即空腸下部ニ於ケル典型的蠕動運動トノ移行型トシテ考フルヲ要シ、シカモ他ニ餘リ類例ナキハ、普通造影食1回投與法ニ依ル一時的強度充盈ヲ來シ認メガタキコト多キ爲ナリトスルモ、Pansdorf W. Brokschmidt ナド分割投與セルモ其出現ノ記載ナキハ如何。然シテ空腸上部ハ輪狀襞ノ多キ處ニシテ、シカモ内容移動迅速ナルヲ思ヘバ縱走橫走ニハ無關係ナリト考ヘ、普通ニハ相當距離ノ内輪層ノ共ニ收縮スルコト稀ナルカ、又ハ瞬間的ナルモノカヲ假定セザルヲ得ズ。其他要素ノ追加ニ依ルモノナリトセバ其要素如何、其爲ニハ極メテ多數ノ例症ニ依ルニ非ザレバ之ヲ推定シ得ザルモノノ如シ。文献ニハ一般小腸收縮部位ニ出現スルコト、及十二指腸下行部上

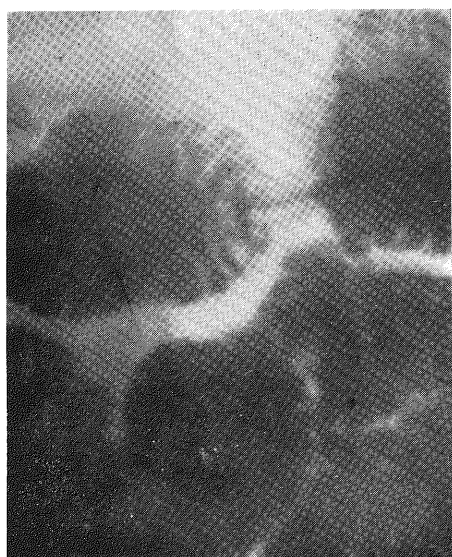
西 東 論 文 附 圖



症例第1例ニミタル縦走粘膜皺襞像



第2例ニミタル縦走粘膜皺襞像



普通ミラル、蠕動様縦走粘膜皺襞像

半ニ稍多數ニミラル、トアルモ、小腸ニハ珍シキ症例トシテ此處ニ記載セルモノナリ。

文 獻

- 1) 岡嶋敬治, 解剖學IV. 2) H. R. Schintz, Lehrbuch der Röntgendiagnostik 3) W. Brokschmidt, "Reiskornartige Füllungsreste und Bandförmige Aussparungen als Zeichen von Verwachsungen des Dünndarmes" Röntgenpraxis. August 1940. 4) W. Teschendorf, Lehrbuch der röntgenologischen Differentialdiagnostik der Bauchorgane. 5) H. Assmann, Klinische Röntgendiagnostik der inneren Medizin. 6) Chaoul-Adam, Die Schleimhaut des Verdauungskanal. 7) 田宮知恥夫, 内科レントゲン診断學. 8) 大高誠, レントゲン診断學要提. 9) 山田豊治, 腸粘膜「レ」線學, 臨床醫學, 21年, 9號, 1345. 10) 前田道貞, 十二指腸粘膜皺襞像ニ關スル「レントゲン」學的研究.